

2019 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館の2019年度年報をお届けいたします。

ご高承の通り、泉屋博古館は、住友家が収集した中国青銅器コレクションと中国絵画、日本絵画、書跡、茶道具、洋画などの美術品寄贈を受け、昭和35年（1960年）に財団法人として設立されました。「泉屋博古館」の名称は、江戸時代の住友の屋号「泉屋」と中国宋の時代に皇帝の命により編纂された青銅器図録「博古図録」から採られています。

現在、当館は国宝2件、重要文化財13件をはじめとする約3,500件の美術品を所蔵し、京都東山の麓、四季折々の自然と史跡に恵まれた鹿ヶ谷に立地する本館と、東京六本木のビジネス・エリアにありながら住友家旧麻布別邸の緑豊かな庭園跡地を臨む分館の2館で保存、調査研究、公開の各事業を行っています。

当館は、京都・東京の2つの国際都市に美術館を構えるユニークさを生かし、館共通のテーマをもとにした活動に加え、それぞれ独自の企画展示にも意を注いでおります。とくに2019年には、住友財団の助成を受け、同財団が積極的に推進している文化財維持・修復事業助成により修復された文化財を紹介する「文化財よ、永遠に」展を、京都・東京両館および東京国立博物館、九州国立博物館の4館合同で開催いたしました。修復で甦った絵画、仏像、歴史文書などの名品の展示に加え、高度な修復技術も併せてご披露することにより、文化財修復の意義をアピールいたしました。また各館独自の展覧会として、京都本館では、近年受贈しました煎茶道具をメインに据えた「中国文房具と煎茶」展など、館蔵品をこれまでと異なる視点で紹介する企画展を開催し、また東京分館では、新天皇即位にあたる時期に、明治150年を記念して、宮中晩餐会の食器やドレス、ボンボンニエールなど宮廷文化を代表する美術品を紹介する「華ひらく皇室文化」展などを開催いたしました。

2020年度は財団設立60年を記念する展覧会を京都本館にて開催いたします。また東京分館におきましては、2022年春のリニューアルオープンを目指し、2020年より改修工事のため休館いたします。展示スペースを拡大し、さらに講堂及び喫茶コーナーなどを新設する予定で、より上質で充実した美術鑑賞の場を整備してまいります。

このような当館の事業は、来館者、賛助会員の皆様並びに学術関係の方々の厚いご支援により成り立っております。さらに、先にご紹介しました展覧会では、住友財団をはじめ様々な関係諸機関より多大なるご支援、ご指導を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。今後も住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在として、多様な美術館活動を展開してまいりたく、引き続きのご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正 之



公開事業の概要

本館（京都）

| 展覧会名 | 期間 | 入館者数 | | | |
|--------------------------------|----------------------|---------------|---------------|--------------------|------|
| | | 有料 | 優待 | 計 | 1日平均 |
| 中国文房具と煎茶 —清風にふかれて | 3/2～5/6 (56日間) | 2,972 | 2,562 | 5,534 | 99 |
| 日本の書 —和歌と詩のかたち | 5/25～6/30 (32日間) | 2,514 | 2,341 | 4,855 | 152 |
| [住友財団修復助成30年記念] 文化財よ、永遠に | 9/6～10/14 (33日間) | 4,491 | 4,761 | 9,252 | 280 |
| 花と鳥の四季 —住友コレクションの花鳥画 | 10/26～12/8 (38日間) | 5,704 | 5,440 | 11,144 | 293 |
| 青銅器館 中国青銅器の時代 (企画展開催期間外入館者) | 企画展期間外 8日間 | 56 | 157 | 213 | 27 |
| 2019年度入館者計 | 167日間 | 51% 15,737 | 49% 15,261 | 対前年比+419 30,998 | 186 |



分館（東京）

| 展覧会名 | 期間 | 入館者数 | | | |
|-----------------------------------|----------------------|---------------|---------------|------------------------|------|
| | | 有料 | 優待 | 計 | 1日平均 |
| 華ひらく皇室文化 —明治宮廷を彩る技と美 | 3/16～5/10 (47日間) | 7,090 | 5,947 | 13,037 | 277 |
| ゆかた 浴衣 YUKATA —すずしさのデザイン、いまむかし | 5/28～7/7 (36日間) | 3,484 | 2,650 | 6,134 | 170 |
| [住友財団修復助成 30年記念] 文化財よ、永遠に | 9/10～10/27 (41日間) | 4,613 | 3,275 | 7,888 | 192 |
| 金文 —中国古代の文字 | 11/9～12/20 (36日間) | 2,617 | 1,408 | 4,025 | 112 |
| 2019年度入館者計 | 160日間 | 57% 17,804 | 43% 13,280 | 対前年比 -18,689 31,084 | 194 |



入館者本分館合計 有料 33,541名 優待 28,541名 計 62,082名 (前年比 -18,270名)

2019 年度公開事業 本館（京都）

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

住友コレクションの中核をなす中国商周時代の祭祀用青銅器について、4つの展示室それぞれにテーマを設定し、青銅器の魅力を紹介した。

第1展示室

青銅器名品選 — いにしえの造形美 —

当館収蔵青銅器の中から選りすぐりの名品を展示し、中国古代青銅器の魅力を伝えた。



第1展示室

第2展示室

青銅器の種類 — 豪華な道具たち —

様々な祀りや儀式で用いられた多種多様な器の用途を紹介する展示。



第2展示室

第3展示室 特集展示

青銅器にあらわされた文字

(3月2日－5月6日、5月25日－6月30日)
金文に焦点を当てた展示。文章の内容とともに、文字の造形についても復元品を利用して紹介した。



第3展示室（文字展）

青銅器の文様 — 神秘のデザイン —

(9月6日－10月14日、10月26日－12月8日)
青銅器の文様に焦点を当てた展示。中華を代表する文様モチーフの龍や鳳凰を紹介する。

第4展示室

青銅文化の展開 — 文化が産むもの、文化を産むもの —
漢時代から清時代に至る金属工芸を陳列。
銅鏡のほか、銅花器や銅香炉を紹介する。



第4展示室

関連催事

- ・ワークショップ 6月8日（59名）、9日（46名）
「铸物体験 ～古印をつくろう」 新郷英弘氏、樋口陽介氏（芦屋釜の里）
青銅器制作技法になぞらえた铸造イベント。幅広い世代が多数参加した。
- ・ギャラリートーク（本館学芸員）
4月20日（36名）、9月22日（28名）、11月24日（23名）

中国文房具と煎茶 — 清風にふかれて

会期：3月2日 - 5月6日

住友春翠が傾倒していた煎茶をテーマとした展示。煎茶席を飾る道具類を茶器だけでなく、文房具、盆栽鉢、文人画など、当時住友春翠の煎茶会で用いられたであろう作品を総合的に陳列した。また当時、煎茶道具のひとつとして扱われた中国古代青銅器・鏡鑑も併せて展示。



展示風景



展示風景



展示風景

関連催事

- ・講演会 「文人たちが見た夢
ー住友春翠を中心にー」 3月31日 (53名)
外山潔 (当館上席研究員)
住友春翠が憧れた文人趣味や煎茶の清雅の
境地について愛蔵品を分析しながら紹介。
外山研究員の集大成とも言える最終講演会。



講演会 (外山)

- ・茶の湯文化学会近畿例会
(茶の湯文化学会との共同開催)
4月28日 (48名)
展覧会テーマに合わせて煎茶文化に関する
発表を二つ実施。
竹嶋学芸員発表『中国文房具と煎茶』展ー
住友春翠の煎茶趣味



茶の湯文化学会近畿例会 (竹嶋)

- ・ギャラリートーク (本館学芸員)
4月14日 (52名)、4月29日 (52名)

- ・ワークショップ 「超茶会 文人としての90分」 4月7日 (36名)
対談者: 佃一輝氏 (一茶庵宗家)、佃梓央氏 (一茶庵宗家嫡承)、橋爪節也氏 (大阪大学教授)、
竹浪遠氏 (京都市立芸術大学准教授)、高井たかね氏 (京都大学助教)、小南一郎 (当
館名誉館長)、野地耕一郎 (当館分館長)
江戸時代の文人や明治の関西実業家たちのように煎茶を楽しみながら芸術 (『中国文房具と煎
茶』展出陳作から) を語り合う会。

- ・煎茶サロン「哲学の道・煎茶の道 ー文人への道ー」共催 4月26日 (14名)
白沙村荘×一茶庵宗家×泉屋博古館 (企画展特別ギャラリートーク、白沙村荘庭園見学、
煎茶会)



ワークショップ「超茶会 文人としての90分」



ギャラリートーク (竹嶋)

日本の書 — 和歌と詩のかたち

会期：5月25日 - 6月30日

館蔵日本書跡の展覧会。書跡の館蔵品展覧会は3回目。前回は書の造形をテーマにしたが、今回は詩歌を書いた作品を集め、文学世界と造形との関わりに注目し、釈文を会場で配布した。また書自体のほか料紙装飾を見せる工夫を行い、多角的に日本書跡の魅力を発信した。



展示風景



関連催事

・青銅器連続講座

「書のはじまり～中国古代の文字・金文の世界～」

第1回 金文に「触れる」—中国古代の文字・金文入門—

山本亮（当館学芸員） 6月1日（45名）

第2回 鑄物としての金文

廣川守（当館館長） 6月15日（43名）

第3回 漢字の生命力 —甲骨・金文はいかにして現代まで生きのびたのか

小南一郎（当館名誉館長） 6月29日（97名）

青銅器館第3室での展示、および書跡展との関連から、漢字のルーツにあたる金文について、字の成り立ちや鑄造技術など、様々な角度から3回にわたり紹介した。

・ギャラリートーク（本館学芸員）

5月31日（50名）、6月22日（80名）



青銅器連続講座（小南）



ギャラリートーク（実方）

住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に

会期：9 月 6 日 - 10 月 14 日

住友財団文化財修復助成によって近年よみがえった国宝や重文を含む文化財を展示し、その修理の最前線を紹介。京都会場では京都周辺に伝わる仏像や文書、絵画などを中心に展示するとともに修復に関わる資料などを紹介した。(2018 年度～2019 年度住友財団助成)



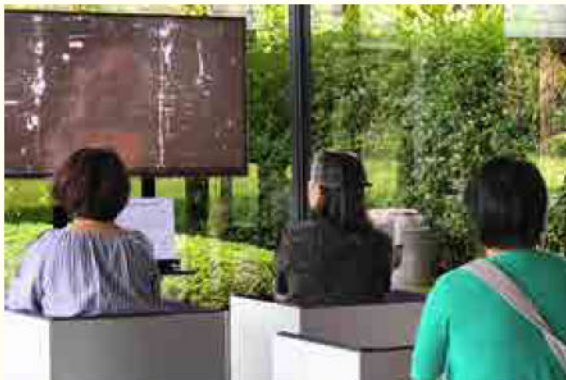
展示風景



展示風景



特別展示 (ロビー)



展覧会に併せて、絵画修復の映像コンテンツを作成し公開した。



展覧会図録『文化財よ、永遠に』（2,100部）

右は同時開催の泉屋博古館分館、東京国立博物館、九州国立博物館陳列品を併せた図録（1,000部）

関連催事

- ・ 講演会 9月16日（76名）
「木の文化財を救う 一木の埴輪から元寇の沈没船の保存まで」 今津節生氏（奈良大学文学部長）
日本および中国、タイなどで出土した木製文化財の保存修復について、新技術の開発から様々な事例への応用までを詳細に紹介した。
- ・ 講演会 9月28日（70名）
「仏像の文化財修理」 陰山修氏（美術院国宝修理所所長）
美術院がこれまで実施した代表的な修理例を提示しながら、木彫文化財修復について、その基本からわかりやすく紹介した。
- ・ ギャラリートーク（本館学芸員）
9月15日（58名；ICOM京都大会開催記念イベント特別ギャラリートーク）
9月29日（40名）、10月9日（86名）
- ・ ワークショップ 9月21日（午前20名、午後19名）
彫刻修理「仏像修復、基本の木」 講師：美術院国宝修理所
木材の基本的な扱いを体験することで、手作業で行う修復の難しさ・楽しさや先人の高い技術力を老若男女問わず実感できるイベントとなった。
- ・ 絵画修理トーク＆ワーク 10月5日（午前5名、午後12名）
「装こう師—国宝のお医者さん—かけ軸の修理を学ぼう」（小学生向け午前の部）
「装演師のお仕事—国宝絵画の修理現場から」（一般向け午後の部）
講師：国宝修理装演師連盟
絵画修理の重要な一工程である事前現状調査を学ぶ催し。中世の仏画を直接観察、装演師の緻密な分析に導かれ、修理の必要性と大変さを体験した。
- ・ 中学生対象見学会 「文化財の保存について」 10月18日（京都文教中学校 62名）



講演会（今津氏）



講演会（陰山氏）



特別ギャラリートーク（実方）



ギャラリートーク（竹嶋）



ワークショップ「絵画修理」（小学生向け）



ワークショップ「絵画修理」（一般向け）



ワークショップ「仏像修復 基本の木」



中学生対象見学会

花と鳥の四季 — 住友コレクションの花鳥画

会期：10月26日 - 12月8日

館蔵花鳥画の展覧会。近世日本で多様な展開をみせた花鳥画に中国の作品を加え、四季の展開にあわせて展示。様式や技法、題材などさまざまな観点で比較しながら、東アジアの花鳥画の根底に流れる人々の想いを紹介した。



展示風景

関連催事

- ・美術史学会共催シンポジウム
「往還する東アジアの花鳥画」11月2日(74名)
竹浪遠氏(京都市立芸術大学)、綿田稔氏(文化庁)、
井戸美里氏(京都工芸繊維大学)、実方葉子(当館
学芸課長) 司会：筒井忠仁(京都大学)
展示中の沈南蘋に関し、18世紀以降の中国・日本・
朝鮮それぞれの絵画史における位置付けを行い、
その果たした役割の再評価を行った。
実方発表「住友家の花鳥画コレクションについて」
- ・ギャラリートーク(本館学芸員)
11月10日(50名)、11月23日(45名)



シンポジウム



ギャラリートーク(実方)

特別展 明治 150 年記念 華ひらく皇室文化 — 明治宮廷を彩る技と美

会期：3 月 16 日 - 5 月 10 日

明治 150 年を記念して、明治皇室が守り伝えようとした日本の技と美を、宮中晩餐会の食器やドレス、ボンボンニエールなど宮廷文化を代表する美術品により紹介した。

〈巡回展〉2018 年：徳川美術館、名古屋市蓬左文庫、秋田市立千秋美術館、京都文化博物館

2019 年：泉屋博古館分館・学習院大学史料館（共同開催）



第 1 展示室展示風景



第 2 展示室展示風景



第 2 展示室展示風景



展覧会図録『華ひらく皇室文化』（総数 6,500 部、2018 年 4 月青幻舎発行）

関連催事

- ・ 講演会 3月16日（60名）「明治宮廷を彩る技と美」 小松大秀氏（永青文庫館長）
明治皇室が積極的に推進した美術工芸品の保護や奨励など、明治の「文化力」を紹介した。
- 4月13日（50名）「明治宮廷と染織の美」 田中潤氏（学習院大学非常勤講師）
日本伝世の染織の美から近代を経て、令和の時代へ継承される宮中の伝統について紹介した。

- ・ ゲストトーク 3月30日（50名）
長佐古美奈子氏（学習院大学史料館学芸員）
- ・ ギャラリートーク（分館学芸員）
3月22日（30名）、4月11日（25名）、
4月18日（30名）、4月20日（50名）



講演会（小松氏）



講演会（田中氏）



ゲストトーク（長佐古氏）



ギャラリートーク（野地）



ギャラリートーク（森下）

特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA
— すずしきのデザイン、いまむかし

会期：5月28日 - 7月7日

江戸時代のゆかたから、簗木清方など近代の画家がデザインしたゆかた、昭和の人間国宝のゆかたなど様々な作品を、染めに使われる型紙や当時の風俗を描く浮世絵などとともに展示し、伝統的な工芸技術への理解が深められるよう、制作現場の映像も使用して紹介した。

〈巡回展〉2018年：島根県立石見美術館、2019年：泉屋博古館分館、川越市立美術館

2020年：泉屋博古館、長崎県美術館



第1展示室展示風景



第2展示室展示風景



展覧会図録『ゆかた 浴衣 YUKATA』(2,500部,2018年7月イデッブ発行)

関連催事

- ・講演会 6月29日 (90名)
松原伸生氏 (染織家)
菊池理予氏 (東京文化財研究所研究員)
千葉県无形文化財「長板中形」保持者の松原伸生氏と、東京文化財研究所の菊池理予氏による講演会。型紙で糊を置く防染技法「長板中形」の技術を紹介した。



講演会 (松原氏・菊池氏)

- ・ゲストトーク 6月8日 (70名)
長崎巖氏 (共立女子大学教授)



ゲストトーク (長崎氏)

- ・あかちゃん鑑賞会 5月31日 (6組 14名)
講師：富田めぐみ氏 (NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)
0歳～3歳児の親子を対象とした対話型鑑賞プログラム。



あかちゃん鑑賞会

- ・こども鑑賞会 6月9日 (5組 14名)
講師：富田めぐみ氏 (NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)
4歳～小学生の親子を対象とした対話型鑑賞プログラム。



こども鑑賞会

- ・ギャラリートーク (分館学芸員)
6月13日 (30名)、6月20日 (30名)、
6月27日 (30名)

- ・七夕コンサート 7月5日 (55名)
演奏：茂木新緑氏 (チェリスト)
毎年恒例の音楽イベント。
バッハ無伴奏チェロ組曲ほか。



ギャラリートーク (森下)



七夕コンサート (茂木氏)

住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に

会期：9 月 10 日 - 10 月 27 日

住友財団文化財修復助成によって近年よみがえった国宝や重文を含む文化財を展示し、その修理の最前線を紹介。東京会場のひとつ泉屋博古館分館では、主に東日本に所在する絵画・工芸品を展示。(2018 年度～ 2019 年度住友財団助成)



第 2 展示室展示風景



第 2 展示室展示風景



展覧会図録『文化財よ、永遠に』(1,200 部)

関連催事

- ・ ゲストリレートーク
 - 9月14日(40名) 室瀬智弥氏(目白漆芸文化財研究所代表取締役)・竹嶋康平(当館学芸員)
 - 9月21日(60名) 山本聡美氏(早稲田大学文学学術院教授)・山下裕二氏(明治学院大学文学部教授)
 - 9月28日(60名) 板倉聖哲氏(東京大学東洋文化研究所教授)・高橋真作氏(東京国立博物館研究員)
 - 10月5日(50名) 山本聡美氏(早稲田大学文学学術院教授)・野地耕一郎(当館分館長)
 - 10月13日(40名) 半田昌規氏(国宝修理装演師連盟副理事長、半田九清堂代表取締役社長)・野地耕一郎(当館分館長)
- ・ こどもワークショップ「文化財修復のいろは」 10月5日(5組9名)
半田昌規氏(国宝修理装演師連盟副理事長、半田九清堂代表取締役社長)
古書の虫喰い穴をふさぐ修復体験と、文化財修復についてのレクチャー。
- ・ ロビーコンサート 10月11日(18名)
「ヨーロッパ・中世～初期バロック音楽の花束」
演奏：細岡ゆき氏(リコーダー・歌)、矢野薫氏(ゴシックハープ)
地域活性に貢献する秋の音楽イベント参加プログラム。



こどもワークショップ



ロビーコンサート(細岡氏・矢野氏)

- ・ シンポジウム 10月19日(380名)(東京国立博物館 平成館 大講堂)
「文化財よ、永遠に—文化財修理の最前線—」
司会：今津節生氏(奈良大学文学部文化財学科教授)
講師：三輪嘉六氏(前九州国立博物館館長)、ウエダ・ターニャ氏(ボストン美術館修復士)
根立研介氏(京都大学文学研究科教授)、陰山修氏(美術院国宝修理所所長)、
有賀祥隆氏(東京藝術大学客員教授)、半田昌規氏(半田九清堂代表取締役社長)、
小松大秀氏(永青文庫館長)、室瀬和美氏(漆芸家・重要無形文化財保持者)
住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」開催を記念して東京国立博物館とシンポジウムを共催。代表的な文化財とその修復報告、文化財修理の意義や現状と課題などをそれぞれの専門家が発表した。

金文 ー 中国古代の文字

会期：11月9日 - 12月20日

青銅器にあらわされた中国古代の文字、金文を初現期の商時代から秦漢時代まで、時代順に、書体、内容の変遷をたどりながら紹介するとともに、復元鑄造レプリカやその鑄型を併せて展示することにより金文の立体的造形を解説した。



第2展示室展示風景



第1展示室展示風景



展覧会図録『金文』(1,000部)

関連催事

- ・講演会 11月23日 (52名)
「金文に見る西周時代の礼制と倫理」
小南一郎 (当館名誉館長)
西周時代の金文から伝世文献への展開を跡付け、古代中国における礼制と倫理の成立を論じた。



講演会 (小南)

- ・ワークショップ
「铸物体験～古印をつくろう」
12月8日 (51名)、12月9日 (51名)
講師：新郷英弘氏、樋口陽介氏
(芦屋釜の里)
青銅器制作技法になぞらえた铸造イベント。
幅広い世代が参加。



ワークショップ (樋口氏)

- ・スライドトーク (当館館長)
12月7日 (46名)
- ・ギャラリートーク (本館学芸員)
11月9日 (30名)、12月14日 (55名)
- ・ショートギャラリートーク (分館学芸員)
11月21日 (14名)、11月28日 (10名)



スライドトーク (廣川)



ギャラリートーク (山本)



ショートギャラリートーク (森下)

2019年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

泉屋博古館紀要第35巻の執筆と編集作業を行った（2019年12月刊行）。

本号は、小南一郎論文、鈴木舞氏（学習院大学東洋文化研究所助教）論文、廣川守・森下愛子ほかの論文の合計3編を掲載。



泉屋博古館紀要第35巻

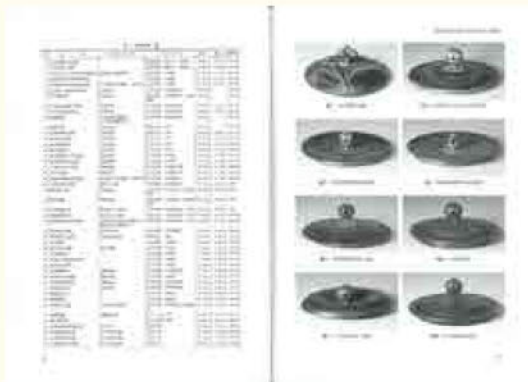
2. 館藏品研究

・「編鐘の復元研究」（廣川）

館蔵編鐘の考古学的、科学的分析を行い、編鐘復元を試みる。前年度に取得したシリコン型から鋳型を作成し、復元鋳造を実施した（芦屋釜の里研究員等との共同調査、日本学術振興会科学研究費補助金JP17K03230による研究）。

・「館蔵茶の湯釜蓋の蛍光X線分析調査」（廣川）

館蔵茶の湯釜の銅製蓋46点の蛍光X線分析（2015年実施）データを整理し、蓋に含まれる微量成分について、同時期の銅製品や銅製錬関連製品の性状と比較しながら、原材料の特性について考察した。その成果を泉屋博古館紀要第35巻に執筆した。



廣川守・村山順一郎・新郷英弘・樋口陽介・森下愛子「館蔵茶の湯釜蓋の蛍光X線分析調査」『泉屋博古館紀要』第35巻

・「木島櫻谷の調査研究」（実方）

櫻谷文庫所蔵資料のうち、前年度に引き続き櫻谷宛書簡整理を同文庫と共同で進めた。また親族宅伝来資料（絵画、写生、書簡、写真など）調査は不明点の多い大正期以降の櫻谷身辺の動向解明につながった。また写生帖調査の成果を下記にて執筆した。「木島櫻谷の写生縮模帖—近代京都における日本画の学習と制作」『近代京都の美術工芸』（並木誠士編 思文閣出版）

・「近代染織史の基礎資料研究」(森下)

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部研究員と共同研究を行う。分館「ゆかた 浴衣 YUKATA」展にて長板中形の制作工程映像を制作し、展覧会にて映像の上映ならびに対談イベントを実施した。

・「館蔵文房具及び煎茶道具の基礎資料研究」(竹嶋)

館蔵の中国文房具に関して、図様や技法等の基礎的な研究を行うと同時に、煎茶会記録との照合を行い、書斎・茶室飾りとしての位置づけを探る。また新収品の煎茶道具に関しても、撮影を進めながら同様の研究を行なった。

・「殷周金文の鑄造技法研究」(山本)

館蔵泉簋銘を対象にして、シリコン型取りと鑄型復元を試み、殷周時代の長文銘の製作について新たな鑄造技法を発見し、復元鑄造により検証した。その成果を展覧会図録『金文』のなかで報告するとともに、「殷周金文の復元鑄造」と題して第30回書学書道史学会大会にて発表した。



毎日新聞 2019年12月4日夕刊1面
『日本の研究グループ 実証実験
浮かぶ「金文」鑄造技法』記事



鑄造実験風景

山本亮・樋口陽介「殷周金文の復元鑄造」
『金文—中国古代の文字—』



3. 住友関連研究

・「美術品収集経緯研究」(学芸員全員)

継続実施している近代の住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を進めた。

4. その他の研究

- ・「中国初期王朝時代の政治と文化」(小南)

中国初期王朝時代(二里頭文化から秦漢帝国の成立までの時期)の制度や文化について、主として出土文物を資料にして、その特質を検討する。その成果の一部を論文にまとめ、「秦の祀天儀礼 下」の題で博古館紀要 35 巻に載せた。



小南一郎「秦の祀天儀礼 下」『泉屋博古館紀要』第 35 巻

- ・「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸を通して、庶民信仰と生活倫理(孝の観念など)の特質を探求する。その成果の一部を「目連救母の物語り 2」として、科研費報告論文として出版した。

- ・「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」(山本)

春秋戦国時代青銅器の生産・流通の実態を、鑄型資料から解明することを目的として、山西省侯馬市において出土鑄型の実見・実測調査を行い、鑄造技術解明に向けて基礎的な知見を得た。(日本学術振興会科学研究費補助金 19K13411 による研究)

5. 連携調査研究

- ・中国内モンゴル金属器の蛍光 X 線分析調査(廣川)

小田木治太郎天理大学文学部准教授を研究代表者とする内モンゴル中南部金属器調査に参加し、蛍光 X 線分析を実施した。

2019年度の美術品修復

1. 龍図堆黄盆および双龍図堆黄長方盆

表面の埃や後補の漆を取り除くクリーニングを実施。その後、ひび割れ部分への漆の充填が続けられている。来年度完了予定。 1,173 千円。



龍図堆黄盆（修復前）

2. 洋画額

「新緑」「五葉蔦」「野の聖母」の額を補修した。 580 千円。



澤部清五郎「新緑」 左：修復前 右：修復後

2019年度の美術品収集

1. 美術品受贈

下記14点の作品を受贈した。

猛鷲波濤図屏風（木島櫻谷） 明治時代（田中邦夫氏ご寄贈）

葡萄栗鼠（木島櫻谷） 大正時代（伊藤靖氏ご寄贈）

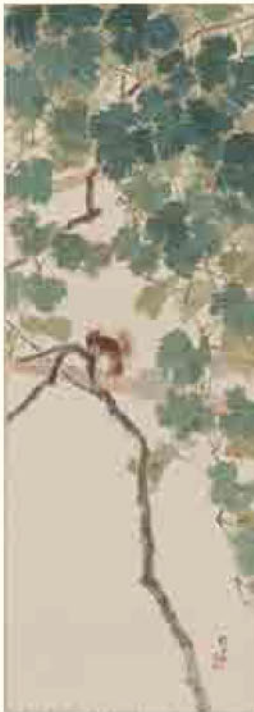
行書 漁家詠（蔡道憲） 明時代（西園寺公友氏ご寄贈）

菊他9点（都鳥英喜） 大正・昭和時代（都鳥進一氏ご寄贈）

青い霧（小山敬三） 昭和時代



猛鷲波濤図屏風（木島櫻谷）



葡萄栗鼠（木島櫻谷）



行書 漁家詠（蔡道憲）



菊（都鳥英喜）

2019年度の収藏品貸出

浅井忠「河辺古城址」「河畔洋館」「グレーの森」「秋林」(いずれも東京分館)

「アール・ヌーヴォーの伝道師 浅井忠と近代デザイン」展(ヤマザキマザック美術館:2018年11月17日～2019年2月17日)

岡田三郎助「五葉菖」(東京分館)

「モダン美人誕生-岡田三郎助と近代のよそおい」展(ポーラ美術館:2018年12月8日～2019年3月17日)

「香包蒔絵小鼓胴」ほか計7件(いずれも東京分館)

「国立能楽堂開場35周年記念 囃子方と楽器」展(国立能楽堂:1月5日～3月21日)

伊藤若冲「海棠目白図」(京都本館)

「奇想の系譜展 江戸時代絵画ミラクルワールド」展(東京都美術館:2月9日～4月7日)

坂本繁二郎「箱」(東京分館)

「没後50年 坂本繁二郎」展(久留米市美術館:4月6日～6月9日、練馬区立美術館:7月14日～9月16日)

十時梅屋「十便十宜帖」(京都本館)

「没後200年記念 増山雪齋」展(三重県立美術館:4月20日～6月16日)

熊谷守一「野草」「鴨跖草」(いずれも東京分館)

「熊谷守一 いのちを見つめて」展(群馬県館林美術館:4月20日～6月23日、静岡県立美術館:8月2日～9月23日、岡山県立美術館:9月28日～11月4日)

宮川長春「遊女図巻」(京都本館)

「遊びの流儀 遊楽図の系譜」展(サントリー美術館:6月26日～8月18日)

円山応瑞「賀茂競馬図」 円山応瑞「牡丹孔雀図」 円山王震「西王母図」 松村景文「老松鴛鴦図」
(以上京都本館) 望月玉泉「芦雁図」 望月玉溪「夏冬之図」(以上東京分館)

「円山応挙から近代京都画壇へ」展(東京藝術大学大学美術館:8月3日～9月29日、京都国立近代美術館:11月2日～12月15日)

岸田劉生「自画像」「冬瓜葡萄図」(いずれも東京分館)

「没後90年記念 岸田劉生」展(東京ステーションギャラリー:8月31日～10月20日)

張璠「春景山水図」 石溪「報恩寺図」(いずれも京都本館)

「中国山水画の精華」展(観峰館:9月21日～11月17日)

「古銅象耳花入 銘キネナリ」「瀬戸肩衝茶入 銘真如堂」「黄天目茶碗 銘鸞」(いずれも東京分館)

「《茶道資料館開館40周年・今日庵文庫開館50周年記念特別展Ⅱ》『三冊名物記』-知られざる江戸の茶道具図鑑-」展(茶道資料館:10月3日～12月8日)

重文「佐竹本三十六歌仙絵 源信明」 重文「上登本三十六歌仙絵 藤原兼輔」(以上京都本館)

「唐物文琳茶入 銘若草」「小井戸茶碗 銘筑波山」(以上東京分館)

「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」展(京都国立博物館:10月12日～11月24日)

「饗養文鼎」「饗養文罍」「饗養文缶」「鶉鴞尊」「鈎連雷文甕」(いずれも京都本館)

「アジアのイメージ-日本美術の「東洋憧憬」」展(東京都庭園美術館:10月12日～2020年1月13日)

「誰ヶ袖図屏風」 宮川長春「遊女図巻」(いずれも京都本館)

「国宝彦根屏風と国宝松浦屏風～遊宴と雅会之美」展(大和文華館:11月22日～12月25日)

2019 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

- ・野地耕一郎「栗原玉葉をめぐる物語」
 - 1月13日 長崎歴史文化博物館特別展「新章ジャパンビューティー」シンポジウム
- ・野地耕一郎「日本画の未来・京都の役割 ～in 先斗町歌舞練場～」
 - 1月19日 西日本旅客鉄道株式会社・京都新聞「京都 日本画新展」記念シンポジウム
- ・廣川守「唐鏡の変遷」
 - 1月19日 古代鏡展示館（兵庫県立考古博物館加西分館）企画展関連講演会
- ・森下愛子「華ひらく皇室文化」ミニ講座
 - 3月9日 霞会館 明治150年記念「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美」関連講演会
- ・森下愛子
 - 4月14日 学習院大学史料館 明治150年記念「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美」ギャラリートーク
- ・野地耕一郎、森下愛子「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美」展 関連シンポジウム
 - 4月27日 学習院大学史料館 第88回学習院大学史料館講座
- ・竹嶋康平「煎茶会のキュレーション—文物が会せば、文人が集う」
 - 5月7日 北海道大学芸術学研究室15周年 芸術学研究会
- ・野地耕一郎「《来迎図》のことから」
 - 6月15日 練馬区立美術館「ふえるコレクション・かわるコレクション」展 記念対談
日本画家 岡村桂三郎氏との対談形式によるトーク・ショー
- ・廣川守「もっと知りたい！関西のミュージアム 泉屋博古館」
 - 8月19日 佛教大学四条センター・京都新聞総合研究所提携講座講演
- ・廣川守「中国古代青銅器の科学的調査と復元鑄造実験」
 - 9月1日 第65回黒川古文化研究所夏季講座「金属工芸—技術復元とその裏側」講演
- ・野地耕一郎「文化財よ、永遠に 展 美を守る文化財修復の最前線」
 - 9月19日 立教女学院 高等学校講演会
- ・山本堯「殷周金文の復元鑄造」
 - 10月27日 第30回書学書道史学会大会招待講演
- ・野地耕一郎
 - 10月21日 宇部市 UBE ビエンナーレ企画展「椿名品展」ギャラリートーク
- ・実方葉子「住友コレクションの花鳥画」
 - 11月14日 NHK 文化センター梅田教室講演
- ・山本堯「中国古代の青銅器と文字—殷周金文から漢鏡銘へ—」
 - 11月16日 黒川古文化研究所展観「秦漢遺宝—器物に込めた願い」観賞講座
- ・山本堯「中国周代の文字（金文）で年賀状をつくろう」
 - 11月30日・12月1日 東京学芸大学公開講座ワークショップ・見学会講師
- ・野地耕一郎「日本画家 東山魁夷を深く知る～その生涯と作品」
 - 12月18日 日経カルチャーセミナー

2. 外部機関への協力

・大学への出講

野地耕一郎「博物館実習(美術史)」 「日本美術史研究Ⅲ AB」 「日本美術史特殊研究Ⅲ AB」

成城大学 2019年4月～2020年3月

山本亮 「考古学A・B」 神戸大学 2019年10月～2020年3月

3. 近隣美術館・施設との連携

・黒川古文化研究所との収蔵品相互寄託(京都)

・煎茶サロン「哲学の道・煎茶の道－文人への道－」共催(京都:4月26日)

白沙村荘×一茶庵宗家×当館 (14名 当館企画展特別ギャラリートーク、白沙村荘庭園見学、煎茶会)

・秋のマステまつり@京都岡崎参加(京都:9月10日～10月31日、インスタ賞～11月30日)

京都市国際交流会館、京都国立近代美術館、京都観世会館、無鄰庵、京都府立図書館、京都市動物園との合同企画

・「ぐるっとパス2019」「港区ミュージアムネットワーク」参加(東京)

・ARK HILLS MUSIC WEEK 参加(東京:10月11日・ロビーコンサート)

・「あ～ととらいあんぐる」ミュージアムスタンプラリー参加(東京)

大倉集古館・菊池寛実記念 智美術館との三館連携企画

4. 新聞、テレビ等を通じての広報活動

京都「中国文房具と煎茶」展

3月8日 日本経済新聞大阪版夕刊広告(4段1/3モノクロ)

3月29日 産経新聞北摂版・北河内版朝刊広告(半5段カラー)

3月30日 京都新聞朝刊アートスクエア

4月5日 京都新聞刊くらしインフォ

4月5日 日本経済新聞大阪版夕刊広告(4段1/3モノクロ)

4月9日 NHK 京都放送局「ニュース630 京いちにち」

京都「日本の書」展(主催京都新聞)

4月25日 京都新聞朝刊社告

5月18日 京都新聞夕刊社告

5月22日 京都新聞朝刊特集紙(全10段カラー)

5月25日 京都新聞朝刊開幕記事

6月1日 京都新聞夕刊「読者とつながる」

6月4日 京都新聞朝刊広告(半5段モノクロ)

6月13日 京都新聞朝刊広告(半5段モノクロ)

6月13日 京都新聞朝刊「京都新聞の主催事業から」

6月17日 朝日新聞大阪版朝刊イベント欄(3段記事)

随時 NHK 京都放送局「ニュース630 京いちにち」「ニュース845」

京都「文化財よ、永遠に」展(主催京都新聞、読売新聞)

1月19日 京都新聞朝刊情報ワイド

5月12日 BSフジ「ガリレオX」(再放送5月19日、9月15日)

5月25日 日本経済新聞全国版朝刊関連記事(8段カラー)

- 8月6日 京都新聞朝刊社告
 8月22日 読売新聞朝刊社告
 8月26日 読売新聞朝刊イベントインフォ
 8月30日 京都新聞夕刊社告
 9月1日 京都新聞タブロイド「ジュニアタイムス」
 9月4日 読売新聞夕刊一面小広告
 9月4日 京都新聞朝刊特集紙（全10段カラー）
 9月5日 読売新聞朝刊開幕記事
 9月5日 京都新聞朝刊開幕記事
 9月12日 読売新聞朝刊テレビ面小広告
 9月18日 京都新聞朝刊広告（半5段モノクロ）
 9月27日 朝日新聞京都版朝刊「古都ナビ」（3段記事）
 10月3日 読売新聞アート&エンタ（5段カラー）
 10月5日 読売新聞夕刊広告（半5段カラー）
 10月6日 NHK・Eテレ「日曜美術館」（再放送10月13日）
 随時 NHK 京都放送局「ニュース630 京いちにち」「ニュース845」
 9月9日 交通広告（～22日、9月30日～10月6日、デジタルサイネージ）京都駅地下
京都「花と鳥の四季」展（主催京都新聞、日本経済新聞）
 10月3日 日本経済新聞タブロイド「REVIVE」
 10月6日 京都新聞朝刊社告
 10月19日 京都新聞夕刊社告
 10月25日 京都新聞特集紙（全10段カラー）・同紙広告面に告知記事
 10月26日 京都新聞朝刊開幕記事
 11月9日 日本経済新聞朝刊社告
 11月13日 京都新聞朝刊広告（半5段モノクロ）
 11月18日 日本経済新聞朝刊アートルाइフ
 11月28日 京都新聞朝刊広告（半5段モノクロ）
京都その他蔵品関連
 4月9日 「二条城行幸図屏風」 NHK BS プレミアム「二条城～戦国から太平へ～」
 5月19日 「二条城行幸図屏風」 日本経済新聞「美の粋」
 5月26日 「松花堂昭乗《三十六歌仙書画帖》伊勢」 日本経済新聞「美の粋」
 6月27日 「伊勢物語図屏風」 京都新聞「文遊回廊」
 7月20日 青銅器館 KBS 京都「週末ライブ キモイリ！」
 7月23日 「沈南蘋《雪中遊兔図》」 テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」
 9月27日 青銅器館 毎日新聞「ぐるっと兵庫大阪京都」
 10月23日 「佐竹本三十六歌仙絵巻 源信明」 NHK 総合・BS4K「歴史秘話ヒストリア」
 10月27日 「佐竹本三十六歌仙絵巻 源信明」 NHK 総合・BS4K・BS8K「響き合う美 佐竹本三十六歌仙絵」（再放送多数）
 11月12日 「鳳柱罿」「虎貞」 テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」
 12月30日 「二条城行幸図屏風」 NHK BS プレミアム「天皇のディナー」
東京「華ひらく皇室文化」展（主催毎日新聞）
 2月22日 毎日新聞朝刊社告
 2月23日 日本経済新聞朝刊
 3月12日 朝日新聞夕刊広告（半5段モノクロ）

- 3月16日 ニコニコ動画「ニコニコ美術館」生中継
- 3月19日 毎日新聞広告（モノクロ）
- 3月21日 CBC テレビ制作「ゴゴスマ！」生放送
- 4月1日 東京メトロ沿線ガイド
- 4月19日 毎日新聞夕刊「出かけてみませんか」
- 4月24日 毎日新聞社告
- 4月27日 TOKYO MX「アート・ステージ 画家たちの美の饗宴」
- 東京「ゆかた 浴衣 YUKATA」展
- 5月21日 朝日新聞夕刊広告（半5段モノクロ）
- 5月23日 東京新聞朝刊
- 5月27日 NHK「首都圏ネットワーク」
- 5月29日 共同通信地方紙記事配信
- 6月1日 J-WAVE「RADIO DONUTS」
- 6月3日 J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」
- 6月9日 産経新聞朝刊
- 6月24日 毎日新聞夕刊「クリップ」
- 7月1日 読売新聞
- 東京「文化財よ、永遠に」展（主催読売新聞）
- 4月1日 港区政新聞
- 5月12日 BSフジ「ガリレオX」（再放送5月19日、9月15日）
- 5月25日 日本経済新聞
- 7月6日 下野新聞
- 8月21日 新美術新聞
- 8月26日 読売新聞、日本教育新聞
- 8月27日 読売新聞
- 9月1日 交通広告出稿（～30日、デジタルサイネージ）東京メトロ上野駅・日本橋駅
- 9月3日 朝日新聞夕刊広告（半5段モノクロ）
- 9月5日 東京新聞「美術館・博物館」
- 9月6日 東洋経済日報
- 9月10日 読売新聞社告
- 9月16日 茨城新聞
- 9月26日 東京新聞「美術館・博物館」
- 9月27日 交通広告出稿（～10月3日、東博合同ポスター）東京メトロ15駅
- 9月28日 東京MX「アート・ステージ」
- 9月30日 交通広告出稿（～10月6日、東博合同ポスター）東急15駅
- 10月1日 読売新聞社告
- 10月3日 読売新聞
- 10月6日 NHK・Eテレ「日曜美術館」（再放送10月13日）、産経新聞
- 10月7日 週刊文教ニュース
- 10月12日 東京新聞広告
- 10月15日 朝日新聞夕刊「美の履歴書」（水月観音像）
- 10月17日 The Japan News
- 10月18日 東洋経済日報
- 10月23日 毎日新聞夕刊

東京「金文」展

- 11月5日 朝日新聞夕刊広告（半5段モノクロ）
- 11月7日 東京新聞朝刊
- 11月22日 東洋経済日報
- 11月25日 日中友好新聞
- 11月28日 毎日新聞 チャイナウォッチ
- 11月29日 毎日新聞 関西版夕刊 金文鑄造実験記事
- 12月4日 毎日新聞 東京版夕刊 金文鑄造実験記事
- 12月8日 NHK・Eテレ「日曜美術館アートシーン」

東京その他蔵品関連

- 1月29日 「岡田三郎助《五葉蔦》」 テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」
- 2月12日 「古銅象耳花入 銘 キネナリ」 テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」
- 12月1日 「山下新太郎《読書の後》」 日本経済新聞「美の粋」

5. SNSを活用した広報活動

京都 フェイスブック投稿（展覧会・作品紹介等）108回

ツイッター（展覧会・作品紹介等）362回

東京 フェイスブック投稿（展覧会・作品紹介等）176回

ツイッター（展覧会・作品紹介等）350回

ブロガー内覧会開催（ウインドム主催）

「華ひらく皇室文化」展：3月15日（参加59名）、「ゆかた 浴衣 YUKATA」展：5月27日（参加45名）、「文化財よ、永遠に」展：9月13日（参加39名）、「金文」展：11月8日（参加37名）

2019年度施設工事

・本館講堂空調設備更新

老朽化した設備（1986年設置、2007年改修）を更新した。工事費6,836千円。

・本館ハロン消火設備容器弁検査

本館企画展示室ハロン消火設備（1992年設置）容器弁の法定検査期限が到来したため、検査及び必要箇所の部品交換、ガス再充填を行った。工事費3,240千円。

2019年度評価委員会

当館では、当館が行う展示、研究、保存などの事業について、その実績・内容、今後の計画などに対し客観的な評価を得て活動水準の高度化を図るため、外部の有識者を中心とした評価委員会を定期的に開催している。2019年度は以下の委員会を開催した。

3月19日 住友会館（東京：評価委員5名、学芸員7名）「2018年下半期展覧会館内評価」

12月4日 本館（京都：評価委員3名、学芸員5名）「2019年上半期展覧会館内評価」

東京分館リニューアル工事

泉屋博古館分館は、改修工事のため、2019年12月の展覧会終了をもちまして一時閉館し、2022年初頭にリニューアルオープンする予定です。

分館は住友家旧麻布別邸跡地に建てられ、当時の佇まいを今に残す庭園とあいまって、都会のやすらぎの場としても親しまれています。現在の分館建物は2002年6月に完成し、美術館として同年10月に開館、その後18年にわたる展覧会活動により多くの来館者をお迎えしました。ただ、近年は設備の老朽化とともに皆様にご不便をおかけすることも増えたため、数年前から美術館機能の改修を検討してまいりました。

この改修では、新たに2つの展示室を加え、展示スペースを約1.5倍に拡大する計画としております。展示スペースの拡大によりこれまで限界もあった展示作品数が改善し、より充実した展覧会を企画開催することが可能となります。また、講堂を新設し、美術講座を行うレクチャールームとして、あるいはワークショップやコンサートなどの催し物を通じて、美術工芸品や文化芸術への親しみを感じていただける場として活用してまいります。

このような展覧施設の改善とともに、来館者や地域の皆様へのホスピタリティの向上も改修の大きな目的としています。売場が狭隘なため品揃えが不十分であったミュージアム・ショップはスペースを拡大し、ゆっくりとお楽しみいただけるよう工夫を凝らします。また、緑豊かな庭園とまるで溶けあうかのようなガラス張りの喫茶・休憩ゾーンをしつらえ、全体として良質で充実した美術鑑賞のための空間を創出したいと考えております。

泉屋博古館は、分館の2022年のリニューアルオープンに向け、記念特別展の準備に入りました。皆様がたのご期待にお応えするべく関係者一同の創意をもって企画を展開いたしますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。



泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛助会員 2019年12月31日現在

特別法人会員

| | |
|----------------|-------------|
| 住友化学株式会社 | 住友重機械工業株式会社 |
| 株式会社三井住友銀行 | 日本製鉄株式会社 |
| 住友金属鉱山株式会社 | 住友商事株式会社 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 住友生命保険相互会社 |
| 株式会社住友倉庫 | 住友電気工業株式会社 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 日本板硝子株式会社 |
| 日本電気株式会社 | 住友不動産株式会社 |
| 住友大阪セメント株式会社 | 三井住友建設株式会社 |
| 住友ベークライト株式会社 | 住友林業株式会社 |
| 住友ゴム工業株式会社 | 大日本住友製薬株式会社 |

法人会員 (50音順)

| | |
|-----------------|---------|
| 株式会社関西C・I・C研究所 | 株式会社薬研社 |
| ワケンホールディングス株式会社 | |

個人会員 (敬称略、50音順)

| | | | | |
|-------|------|-------|------|------|
| 足立佐智子 | 熊澤保夫 | 古賀邦正 | 酒木良介 | 関野由弘 |
| 谷水雄三 | 田村大作 | 藤見知愛子 | 武藤治太 | 村瀬 寛 |
| 村瀬町子 | 森 重文 | 山田康之 | | |

役員・評議員

2019年12月31日現在

| | | |
|-------|---------|---------------------|
| 理事長 | 奥 正 之 | 三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問 |
| 常務理事 | 屋 代 榮 | 住友成泉社長 |
| 理 事 | 遠 藤 信 博 | 日本電気会長 |
| | 岡 村 秀 典 | 京都大学教授 |
| | 小野寺 研一 | 住友不動産会長 |
| | 熊 倉 功 夫 | MIHO MUSEUM 館長 |
| | 家 守 伸 正 | 住友金属鉱山相談役 |
| | 酒 井 忠 康 | 世田谷美術館長 |
| | 佐々木 丞平 | 京都国立博物館長 |
| | 佐 藤 義 雄 | 住友生命保険会長 |
| | 住友 吉左衛門 | 住友財団理事長 |
| | 常 陰 均 | 三井住友信託銀行会長 |
| | 十 倉 雅 和 | 住友化学会長 |
| | 中 村 邦 晴 | 住友商事会長 |
| | 西 上 実 | 京都国立博物館名誉館員 |
| | 廣 川 守 | 泉屋博古館長 |
| | 松 本 正 義 | 住友電気工業会長 |
| 監 事 | 磯野 與志嗣 | 税理士 |
| | 秦 喜 秋 | 三井住友海上火災保険シニアアドバイザー |
| | 中 村 吉 伸 | 住友重機械工業相談役 |
| 評 議 員 | 新 井 英 雄 | 三井住友建設社長 |
| | 小 野 孝 則 | 住友倉庫社長 |
| | 下 谷 政 弘 | 住友史料館長 |
| | 住 友 信 夫 | |
| | 関 根 福 一 | 住友大阪セメント社長 |
| | 多 田 正 世 | 大日本住友製薬会長 |
| | 出 川 哲 朗 | 大阪市立東洋陶磁美術館長 |
| | 友 野 宏 | 日本製鉄相談役 |
| | 林 茂 | 住友ベークライト会長 |
| | 馬 淵 明 子 | 国立西洋美術館長 |
| | 三 野 哲 治 | 住友ゴム工業相談役 |
| | 森 重 樹 | 日本板硝子社長 |
| | 矢 野 龍 | 住友林業会長 |

法人概要

貸借対照表

2019年12月31日現在

単位：円

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|--------------------|------------------|------------------|-----------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 80,041,377 | 119,377,803 | -39,336,426 |
| 棚卸資産 | 7,346,880 | 4,483,884 | 2,862,996 |
| 仮払金 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| 前払金 | 26,614 | 26,130 | 484 |
| 前払費用 | 1,382,328 | 5,415,656 | -4,033,328 |
| 立替金 | 62,329 | 38,609 | 23,720 |
| 未収金 | 377,798 | 334,852 | 42,946 |
| 流動資産合計 | 89,387,326 | 129,826,934 | -40,439,608 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 美術品 | 6,416,102,120 | 6,410,302,120 | 5,800,000 |
| 土地 | 2,882,732,000 | 2,882,732,000 | 0 |
| 建物 | 0 | 706,041,437 | -706,041,437 |
| 構築物等 | 0 | 2,313,877 | -2,313,877 |
| 投資有価証券 | 3,250,697,028 | 3,259,142,205 | -8,445,177 |
| 定期預金 | 0 | 300,000,000 | -300,000,000 |
| 普通預金 | 50,000,000 | 0 | 50,000,000 |
| 基本財産合計 | 12,599,531,148 | 13,560,531,639 | -961,000,491 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 営繕積立資産 | 7,513,199 | 7,513,199 | 0 |
| 基本財産購入積立資産 | 14,773,807 | 14,773,807 | 0 |
| 保存公開事業積立資産 | 3,002,700 | 3,002,700 | 0 |
| 調査研究事業積立資産 | 20,431,000 | 20,431,000 | 0 |
| 株式 | 106,455,000 | 0 | 106,455,000 |
| 株式取得資金 | 149,293,966 | 0 | 149,293,966 |
| 建物 | 597,819,196 | 0 | 597,819,196 |
| 構築物等 | 4,518,954 | 0 | 4,518,954 |
| 特定資産合計 | 903,807,822 | 45,720,706 | 858,087,116 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 建物 | 93,437,731 | 14,839,253 | 78,598,478 |
| その他 | 24,858,653 | 27,337,453 | -2,478,800 |
| 投資有価証券 | 1,110,152 | 1,121,010 | -10,858 |
| 長期前払費用 | 1,584,970 | 46,175 | 1,538,795 |
| 建設仮勘定 | 41,893,000 | 6,804,000 | 35,089,000 |
| その他固定資産合計 | 162,884,506 | 50,147,891 | 112,736,615 |
| 固定資産合計 | 13,666,223,476 | 13,656,400,236 | 9,823,240 |
| 資産合計 | 13,755,610,802 | 13,786,227,170 | -30,616,368 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 16,143,237 | 8,698,430 | 7,444,807 |
| 預り金 | 3,813,148 | 15,777,770 | -11,964,622 |
| 流動負債合計 | 19,956,385 | 24,476,200 | -4,519,815 |
| 2. 固定負債 | | | |
| その他固定負債 | 24,310,036 | 24,069,343 | 240,693 |
| 固定負債合計 | 24,310,036 | 24,069,343 | 240,693 |
| 負債合計 | 44,266,421 | 48,545,543 | -4,279,122 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 基本財産 美術品 | 6,415,508,120 | 6,409,708,120 | 5,800,000 |
| 基本財産 土地 | 2,882,732,000 | 2,882,732,000 | 0 |
| 基本財産 建物 | 0 | 632,407,016 | -632,407,016 |
| 基本財産 構築物等 | 0 | 2,313,877 | -2,313,877 |
| 特定資産 建物 | 597,819,196 | 0 | 597,819,196 |
| 特定資産 構築物等 | 4,518,954 | 0 | 4,518,954 |
| 寄付金 | 569,800 | 3,953,684 | -3,383,884 |
| 指定正味財産合計 | 9,901,148,070 | 9,931,114,697 | -29,966,627 |
| (うち基本財産への充当額) | (9,298,240,120) | (9,927,161,013) | (-628,920,893) |
| (うち特定資産への充当額) | 602,338,150 | 0 | 602,338,150 |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| 一般正味財産合計 | 3,810,196,311 | 3,806,566,930 | 3,629,381 |
| (うち基本財産への充当額) | (3,301,291,028) | (3,633,370,626) | (-332,079,598) |
| (うち特定資産への充当額) | (301,469,672) | (45,720,706) | (255,748,966) |
| 正味財産合計 | 13,711,344,381 | 13,737,681,627 | -26,337,246 |
| 負債及び正味財産合計 | 13,755,610,802 | 13,786,227,170 | -30,616,368 |

泉屋博古館蔵品紹介 第3回 中国書画

住友コレクションのなかで青銅器に次いで古くから評価されてきたのは、中国書画でしょう。絵画約150点、書跡約40件と数こそ多くはありませんが、他に類のない特徴をそなえ今なお国の内外に光彩を放っています。古くは、南宋時代の《秋野牧牛図》(伝閻次平 国宝)など宋の宮廷ではぐくまれた優美で精緻な院体画、また明の正統的文人画の流れを汲む端正な水墨山水画などが含まれます。これらを集めたのは、住友家第15代当主住友春翠(1864～1926)。公家出身で和漢の伝統文化を揺籃として育った彼が、室町時代以来上流階級で尊重され、また江戸時代の文人たちが憧れた中国絵画を愛玩したのは自然な流れでしょう。

しかしなんとといってもコレクションの核となるのは、その子息住友寛一(1896～1956)収集による明末清初の個性派たちです。明から清への王朝交替、それは漢民族から満州族の世へと転換する激動期でした。この時代、多くの人々が異民族支配に反発し新王朝への仕官を拒む遺民の道を選びました。そのなかから、様々な思いを筆に託し、型破りな表現を生み出した画家が輩出したのです。明の王族出身で生きるため禅僧の道歩んだ八大山人、その晩年の傑作が《安晩帖》(重文)です。屈託のない自由な筆使いで鬱屈を超越した諧謔の精神を吐露し、時に極限までそぎ落とした抽象画にも迫る表現をも見せてくれます。また旅と交友、古今の名画との対話を通じ、あふれる色彩と繊細なタッチで幻想的な山水世界を作り出した石濤の代表作が《廬山観瀑図》《黄山八勝図冊》《黄山図巻》(いずれも重文)と3点揃うことも特筆すべきでしょう。

それらに早くから注目し収集した住友寛一は、西洋式教育のもとでヨーロッパの芸術観の洗礼を受けた後、改めて東洋の美に目覚めました。彼に強い影響を与えたのが親交のあった洋画家岸田劉生で、大正後期、若い芸術家の間で高まった中国画再評価の気運の中心人物でした。そして寛一はとらわれのない清新な眼差しで、明末清初から近代中国まで、個性的で自由な表現者たちの優品を集めていきました。

父と子、ふたりの眼によって選ばれた中国書画は、時に好対照をなし、時に融和して、当館の中国書画コレクションに一層の深みと広がりをもたらしました。彼らの愛でた静かで奥深い書画は、折々の企画展でご紹介してまいります。

(実方葉子)

国宝 秋野牧牛図 伝閻次平 南宋時代（13世紀） 97.5 × 50.6 cm

紅葉した大樹の陰で牧童と水牛がくつろぐ穏やかな秋の昼下がり。雄大な自然景を取り込む空間構成、牛の毛並みにいたる精緻な描き込み、いずれにおいても宋の宮廷画の繊細で優美な美意識を伝えている。室町時代には足利將軍家にあったことが附属の相阿弥書付から知られる。

重要文化財 安晩帖 第7図「叭々鳥」 八大山人 清・康熙33年(1694) 31.7 × 27.5 cm

岩にたたずむ黒い小鳥は、何を思うのか。八大山人(1626-1705)の作品は時に諧謔的で思わせぶり、観る者の心をとらえて離さない。自在に操られる墨のにじみやかすれ、大胆にして繊細な運筆、絶妙な構成など、数々の苦渋をへて書画に専心した晩年の安穩の境地をうかがわせる。

重要文化財 黄山八勝画冊 第5図 石澗 清時代（17世紀） 20.1 × 26.8 cm

世界遺産にも登録される黄山は、大小の岩山と雲海の奇怪な眺めで多くの画家を刺激してきた。その代表である石澗(1642-1707)が、訪問から十数年を経て思い出をたよりに描いた連作。淡い色調のなか、道中と山内の景観が機知に富む構図で八図に描き分けられる。



国宝 秋野牧牛図 伝閻次平

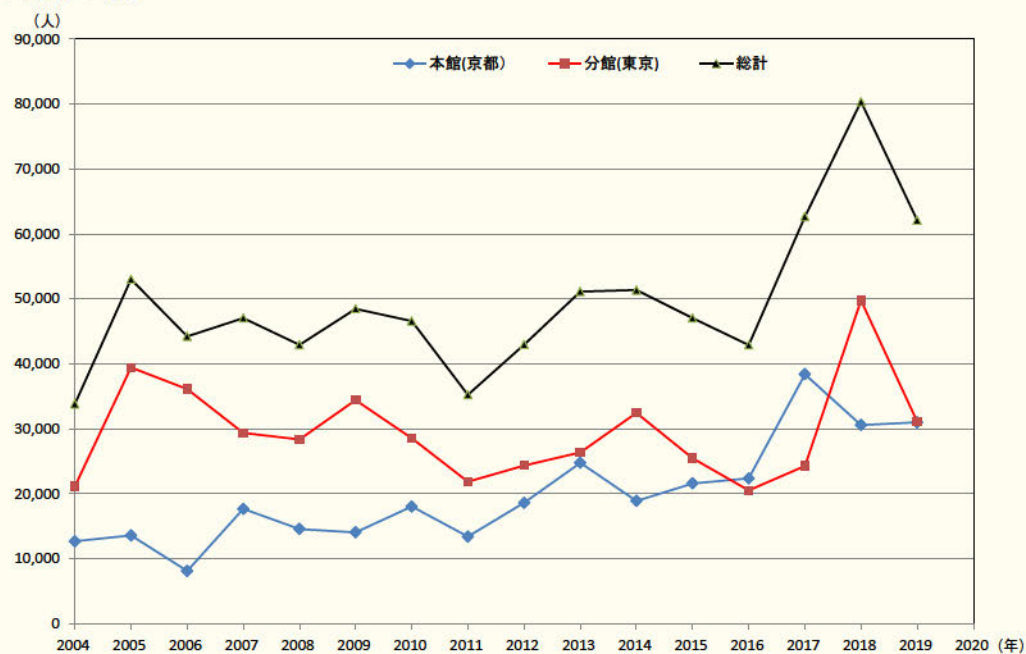


重要文化財 安晩帖 第7図「叭々鳥」 八大山人



重要文化財 黄山八勝画冊 第5図 石澗

入館者の推移



2020年展覧会予定

本館（京都）

開館 60 周年記念名品展 I

モネからはじまる住友洋画物語

3月14日 - 5月17日

特別展

ゆかた 浴衣 YUKATA -すずしさのデザイン、いまむかし

6月6日 - 7月12日

開館 60 周年記念特別展

瑞獣伝来 -空想動物でめぐる東アジア三千年の旅

9月12日 - 10月18日

開館 60 周年記念名品展 II

泉屋博古 -住友コレクションの原点 (仮)

10月30日 - 12月6日

分館（東京）

改修工事のため 2022 年まで休館